

鬼怒川決壊 自衛隊に救助された主婦

「恩人戦地へ行かせない」



安本法で活動範囲が広がる自衛隊。関東・東北水害で大きな被害を受けた茨城県常総市で、床上浸水した自宅からヘリコプ

ターで救助された主婦(四〇)は「私の命の恩人である自衛隊員を戦争や生き死にのある怖いところに行かせたくない。こころが守ってあげたいくらい」と語った。

鬼怒川が決壊した十日、自宅周辺の水位が急に上がり、車で避難できなくなった。自宅二階から懐中電灯を空に向けて振ってきた隊員が「大丈夫ですよ」

鬼怒川決壊による行方不明者の捜索をする自衛隊員＝茨城県常総市で

と笑顔を見せた。緊張が一気にほぐれた。隊員の服に「海上自衛隊」とあった。

自衛隊員に会ったのは、これが初めて。「自衛隊員は人の命や国を守るために働き、しっかりと訓練を受けてきたはず。他国の戦争に行かせるのは、やめてもらいたい」。救助されて、その思いを強くした。

隊員たちは十八日も雨の中、ぬかるんだ泥に足を取られながら、行方不明者の捜索や小学校の片付け、土のう積みと奔走した。三十代の隊員は「法案について、個人としての考えは持っているが、自衛隊全体の考えのよさに受け取られると困るので控えたい。上の命令に従うだけです」と言葉少なだった。